

イストラ半島 (クロアチア)



人々の暮らしぶりも想像できるロヴィニの市場



黄金色のモザイク画で有名な世界遺産のエウフラシウス聖堂



ローマ時代に造営されたポレチェの旧市街



ミルナ川沿いの丘にある中世の町・モトブン



海に突き出た出島のようなロヴィニの景観
[写真提供:クロアチア観光局]

アドリア海に浮かぶ「不思議の大地」 独特の景観や文化が放つ尽きない魅力

JATAによるチームヨーロッパの取り組みを通じ、注目アステイションとして存在感を増すクロアチア。そのクロアチアにあつて、多様な歴史を積み重ねてきたイストラ半島は、独特の景観や文化から「不思議の大地」と呼ばれ、尽きない魅力を放ち続けています。

地政学的要衝に刻まれた多様な歴史

イタリアとバルカン半島に挟まれた地中海の内海として知られるアドリア海に突き出したイストラ半島は、ローマ帝国に始まり、フランク王国やヴェネツィア共和国、ハプスブルク家などによる統治の後、18世紀末以降は、フランスやオーストリア、イタリアにも支配された歴史を持ちます。イストラ半島の魅力を奥深いものになっているのは、スラブラテン・ゲルマンというヨーロッパの3大民族グループが接する地政学的要衝であればこそその多様な歴史にはかきまみれません。

イストラ半島には「不思議の大地」を体現する都市がいくつもありますが、その白眉といふべき存在がロヴィニです。500年にもわたってヴェネチアの支配を受けてきたロヴィニは、海に突き出た出島のような土地を高い建物ぐるりと囲み、さながら小さなヴェネチアともいふべき雰囲気漂い

ます。旧市街を歩くと、曲がりくねった石畳の道から、さらに迷路のように脇道が伸び、家々の屋根瓦のオレンジ色と周囲に広がるアドリア海の青が織りなす色鮮やかなコントラストは、中世に迷い込んだかのような散策を心弾むものへと演出してくれるのです。

内陸の小さな町や村にも大きな魅力

そのロヴィニと対照的存在と言えるのが、バスで1時間ほどのポレチェです。ローマ時代に造営された碁盤の目のような旧市街は現在も往時の名残をとどめ、メインストリートはローマ時代からの名前と呼ばれています。旧市街に響くのは、ビザンチン時代を今に伝える黄金色のモザイク画で有名な世界文化遺産のエウフラシウス聖堂です。アドリア海を挟んで対岸に位置する東ローマ帝国の影響を色濃く映す聖堂は、ギリシャ・ローマ時代の昔から海洋貿易の拠点として栄えてきたポレチェが波乱万丈の歴史を刻んできたことを示しています。

沿岸部では地中海文明の文化遺産が訪れる者に感銘を与えるイストラ半島は、内陸部にある小さな町や村の整えられた美しい景観も、大きな魅力の一つです。その代表格と言えるのが、半島で最長というミルナ川沿いの丘に建つ中世の町・モトブンです。周辺に森林では世界三天珍味の二つと言われる高級食材のトリユラも豊富に採れ、リーズナブルな価格でトリユラ料理を味わえるのもイストラ半島ならではの楽しみです。